

琉球大学学術リポジトリ

[巻頭言]

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大屋, 一弘, Oya, Kazuhiro メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015651

巻 頭 言



沖縄農業研究会会長 大 屋 一 弘

沖縄の農業環境は、土、水などにはかなりの問題はあつたものの、何よりも亜熱帯的気候に特徴付けられるのではないかと思う。

夏は暑く、冬は熱帯地域に比べかなり寒い。夏の暑さは昼夜温の格差が小さく、四・六時中暑い。故にこの条件は熱帯作物に適してはいるが、温帯で夏に栽培できる多くの作物（主に野菜類）の生産には向かない。

冬は北風が強く、かなり寒くなる。冬の気温は多くの熱帯作物の適温下限（約20℃）の半分近くになる。この条件は温帯作物には向くものの、熱帯作物には至って厳しい。

熱帯の夏、温帯の冬にさらされる亜熱帯沖縄には、その分生物は多様性に富むという恵みがある。しかし、一方で作物病虫害の多種、多発があるのは誰もが認めるところである。

日本列島の最南端に位置するという沖縄の地理的条件から、沖縄の農業においては熱帯作物の生産に主力を注がざるを得ないが、前述の条件に対処するため関係者の間では種々の努力が行われている。

その努力の結果の一つとしてミバエの撲滅がある。まさに今流行のプロゼクトXの成果である。ミバエ撲滅により、従来出来なかつたゴーヤー、マンゴー、パパイヤ、シークァーサーなど熱帯果実、果菜等青果の県外移出が可能となつた。これは沖縄農業へのカンショやサトウキビ導入に並ぶ偉業と考える。

沖縄農業研究会のメンバーは、沖縄農業に対してミバエ撲滅程の大規模事業ではないとしても、それぞれの専門的立場からプロゼクトXを密かに考えていることと思う。その場合、一人で考えるより多人数で議論し、アイデアやノウハウを交換し合う方が確実性を増し、はるかに効率的である。この研究会には多方面から沖縄農業に関心を寄せる人々の参加が得られていることから、小さなアイデアが大きく発展する可能性も高い。

各自のプロゼクトX展開に向け、この沖縄農業研究会を踏み台として存分に活用し活躍して頂きたいと念ずるものである。